

原爆で負傷した一人の女学生。その二日後、彼女は福山大空襲の知らせを耳にし、電車で飛び乗った。福山に辿りついた彼女の目前には、焼き尽くされた福山のまちが広がっていた。それから一年後——。

広島では、被爆の翌年から音楽で広島を勇気づけようと奔走した若者たちがいた。彼らの名は「広島学生音楽連盟」。彼らの願いは今、よみがえり、次世代へと継承される。

広島が原爆によって焦土と化した日から二日後。広島で被爆した一人の女学生は、福山大空襲の知らせを耳にする。家族の安否を求め列車に飛び乗り辿りついた福山は、跡形もなく焼き尽くされていた…。それから一年後——。

広島では若者たちの歌声が響いていた。その歌声の主は「広島学生音楽連盟」。戦後の混乱期中、旧制高校6校の学生たちが集い結成した100人余りの合同合唱団。彼らはドイツ歌曲などを歌ったほか、日本を代表する音楽家を次々と招いて演奏会を開催した。その目的の一つは、学校の復興資金を集めるため。そして、もう一つは広島を音楽で元気にするため。

「ヒロシマ・音の記憶Vol. 4. ～継承～」は、ドキュメンタリー映画「音の記憶・つながり」の上映、そして「広島学生音楽連盟」や「平和」にゆかりのある楽曲の演奏を通して、原爆及び空襲による大きな傷を負いながらも、音楽と共に力強く駆け抜けた若者たちの姿、そしてそれを継承することの意味を見つめる。

「音楽が力を与えてくれる」——。  
「広島学生音楽連盟」のメンバーが抱いていたその強い願いが、現代の若者を通して、今よみがえる。

## PROGRAM

### <第一部>

ドキュメンタリー映画「音の記憶・つながり」(68分)

監督・撮影：青原さとし

企画：「ヒロシマと音楽」委員会

製作：「ヒロシマと音楽」委員会、NPO法人ANT-Hiroshima



### <第二部>

マリンバ・ピアノ二重奏

・フランツ・シューベルト／作曲

「野ばら」

・大木惇夫／作詩、佐藤眞／作曲

混声合唱とオーケストラのためのカンタータ《土の歌》より

「大地讃頌」

・宮城道雄／作曲（島津秀雄 編曲）

「春の海」

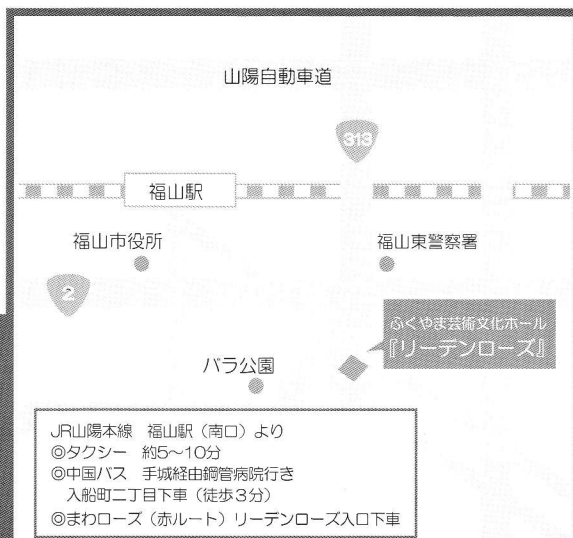
他



大迫 俊一 (マリンバ)



大迫 知佳子 (ピアノ)



### 「ヒロシマと音楽」委員会について

被爆50周年を機に「ヒロシマ」をテーマとする音楽作品のデータベース化を行うために結成され、2006年には音楽作品のリストを掲載した『ヒロシマと音楽』(汐文社)を出版。現在もデータ収集事業を中心に活動を行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://hirongaku.com/>

ヒロシマと音楽 HIROSHIMA and Music